

最高顧問に世界的権威

弘大ウェルビーイング総研



4階に研究所が設置される「グローバルWell-being総合研究棟」＝弘前大本町キャンパス



イチロー・カワチ教授

1961年、東京都生まれ。12歳で父親の仕事の関与でニュージーランド(NZ)に移住。NZ最古の大学であるオタゴ大学医学部を卒業し、博士号を取得。92年からハーバード公衆衛生大学院の教壇に立ち、2008年に同大学院社会・行動科学部長に就任し現在に至る。国際的な科学雑誌「ソーシャル・サイエンス・アンド・メディスン」の編集長を務めるほか、米国家医学研究所や米科学アカデミーのメンバーにも選出されている。

専門は社会疫学・公衆衛生・老年学で、特に「健康の社会的決定要因」について研究する。東日本大震災の被災地では「復興において社会の絆が健康に与える長期的な影響」を調査している。

弘前大副学長でグローバルWell-being総合研究所副所長の村下公一教授は、最高顧問を打診した理由について「社会疫学

研究力強化へ期待

米ハーバード公衆衛生大学院・カワチ教授

弘前大学は19日、国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」における同大の研究拠点「グローバルWell-being総合研究所」について、米ハーバード公衆衛生大学院社会・行動科学部長のイチロー・カワチ学部長・教授(64)の最高顧問就任を発表した。カワチ教授はWell-being(ウェルビーイング)心身および社会的に健やかで幸せな状態)研究の世界的権威で、弘前大が目指す世界トップレベルの研究拠点形成が大きく前進すると期待される。就任は10月1日付。(稲葉智絵)

を基盤としたウェルビーイング研究の世界的な第一人者で、社会と健康の研究に関して多くの実績を有する。

る。(カワチ最高顧問の就任で)グローバルWell-being総合研究所の世界的な地位確立と研究力強化につながる」と語った。重ねて、カワチ最高顧問が有する医学領域のグローバルなネットワークを基盤に「弘前の地で世界的な研究・開発・実証拠点の形成を目指す」とともに、県民のウェルビーイング向上や地域経済の活性化にも大きく貢献していきたいと述べた。同研究所は弘前大本町キャンパスに新設された「グローバルWell-being総合研究棟」の4階に設置。研究員ら約70人が所属しウェルビーイング領域の研究を進める。弘前大は来月12日、同研究棟で研究所の開所式を行い、続いて記念シンポジウムを開く。